

# 組合ニュース

発行：2024年3月8日

大分大学教職員組合

TEL・FAX：097-554-7998

E-Mail：info@oitauu.sakura.ne.jp

## 人事院勧告に関する交渉報告

### 人事院勧告対応について 期末勤勉手当0.1月分引上げ4月支給 団体交渉で回答！！

#### 第3回団体交渉実施

2月22日(木)、組合からは委員長をはじめ7名、法人からは廣瀬理事他6名の出席のもと、第3回団体交渉を行いました。今回の団体交渉における法人からの回答は以下のとおりです。

#### ■人事院勧告対応について

前回の交渉で、今年度人事院勧告の期末勤勉手当の取扱いについては令和6年度運営費交付金の内示以降に対応を決定するとしていましたが、本日の交渉で、2023年12月期の期末手当0.05月分、勤勉手当0.05月分、計0.1月分を引上げ、4月の給与で追加支給するとの回答がありました。これで、やっと今年度の人事院勧告どおりの支給となります。

組合からは、再考により、他の法人と並んだことについては評価したい。法人の人勧準拠の原則に則り、今後も最低限人勧準拠を行い、交渉する必要のない対応をするよう伝えました。

#### ■非常勤職員の待遇改善について

##### ・非常勤職員の給与改定時期を常勤職員と同様に、4月に遡及して行うこと

法人より、非常勤職員の4月遡及適用について、単年度契約で契約時に賃金を決定していること、他大学でも実施していないこと、本学でもこれまで実施していないこと、今年度の財源がないこと、また、今年度は有給の特例休暇3日を付与したことを理由に、次年度から引き上げたいという回答

がありました。

さらに、人事院は通知をだしているが、文科省からは法人に対し通知はきておらず、国立大学法人には、財政的な裏付けもないため遡及は難しいと説明がありました。

組合からは、非常勤職員は常勤職員と賃金・福利厚生面で大きな開きがある一方、業務上なくてはならない存在になっており、現場での働きに見合った待遇になっておらず、現場の声をもっと理解するように要求しました。

また組合から、職員代表委員会が非常勤職員アンケートを実施中で、数日間で111件の回答があったことを伝えました。回答の多くは遡及を望んでおり、常勤職員からも遡及しないのは問題があるとの回答が多数あることを伝えました。

法人からは、各職場と意見交換しながら、対応を考えていきたいとの回答がありました。

##### ・非常勤職員と常勤職員との待遇の相違について、ボーナスをはじめとした、不合理な格差を是正すること

法人は、非常勤職員のボーナスの支給については、他の九州内のすべての国立大学法人もボーナスを支給しておらず、本法人も支給できる状況ではないと回答しました。そのうえで、非常勤職員については、本法人は県や市と比べて休暇制度はかなりよく、時給単価も県よりも高いが、年収では差が出ていることは理解している。一方ボーナスの差をどのように埋めるのか、財政状況もあり、

そこが課題であるとなりました。

## ■ 教員の待遇改善について

### ・入試業務に関わる手当を拡充すること

法人より、令和5年に支給細則の改正を行ったばかりであること、また他大学との比較でも遜色ないと考え、手当の拡充は考えていないと回答がありました。

組合からは、入試手当の推移の提示を求め、面接手当1500円は低すぎると主張しました。また、昨年度改定したからというのは回答になっておらず、改善に向けて検討すべきだと伝えました。

法人からは、入試手当の推移について資料を至急準備すると回答がありました。

### ・専任教員数の減少による管理運営業務・教育業務の負担の増大に対し、各学部に適正な教員ポストを充当すること

法人より、教員の人事については、第4期のキャップ制に基づいて実施していると回答がありました。

### ・兼任・兼担に対して、手当を増設すること

法人より、手当の増設は考えていないと回答がありました。

組合からは、特定の教員の過重負担になっているか、評価の対象になっているのか等を指摘し、法人として内容を精査してきちんと報告するよう求めました。

### ・部局に配分される教育・研究軽費を削減しないこと

法人より、間接経費を引き上げている。また予算については、各部局代表が出席する予算委員会で議論がされているという回答がありました。

組合からは、物価高もあり実質は減額状況であり削減をしないよう求めました。

## ■ 事務職員・技術職員の待遇改善について

### ・事務職員の時間外労働の実態や発生原因を正確に把握するとともに縮減策を具体的に講じ、ワークライフバランスを実現すること。

法人より、超過勤務については、局長部長会議で毎回確認している。多用なキャリアパスのあり

方、業務の見直し、人を増やすことをやっているという回答がありました。

### ・心身の健康問題による病気休暇の取得者が増えている実態に対して、対策強化の取り組みを行うこと。

法人より、10日以上有病休取得者は、平成30年以降30～40名で推移し、令和5年は42名と増加傾向であることは把握している。病休が1週間をこえた場合には、診断書を提出をしてもらい、産業医が確認し面談を実施しているという回答がありました。

組合からは、休職や復職に入るプロセスや再取得の数、年齢構成について分かる範囲で回答して欲しいと伝えました。

また、対策強化の取り組みとして、法人はストレスチェックや、産業医の面接指導等を行っており、復職後は産業医と面談しフォローをしている。場合によっては人事課も同席して、勤務時間調整等を行っており、十分本人の精神的負荷が低減されるよう配慮をしているという回答がありました。

### ・技術部と人事課間のキャリアパスに関する意見交換会を継続し、さらなる前向きな改善を行うこと

法人より、2月15日に意見交換会を実施して、キャリアパスについて意見交換を行ったとの報告がありました。挟間との意見交換のセッティングの要望があったので現在調整しているとのことでした。

組合からは、毎年意見を聞くだけにとどまらず、改善実績を作るよう要請しました。

### ・大分大学技術専門員昇格選考基準を踏まえつつ、専門員定数増および退職前5級・技術専門職員5級の改善を行うこと

大分大学の専門員定数は現在1人で、法人も1人というのは他大学に比べると少ないという理解で、これからも1人を維持ということではないが、全学の状況を勘案して具体的な検討をすすめたいと回答がありました。

### ・技術長以上の職について、職務に見合った手当を

## 支給すること

法人より、管理監督者への手当支給については、他部署との関連で検討したいとの回答がありました。

## ・職域限定職員の待遇改善を行うこと、他の常勤職員の給与改定と同様の見直しを行うこと

法人より、キャリアパスについて、前回交渉で回答したとおり、年度内に考え方を提示する準備をしている。具体的には、R7. 4. 1から職域限定職員について常勤化する検討をしているのでそれを示したいとの回答がありました。

## ・長く働く非常勤職員に対して、待遇改善につながるキャリアパスをつくること

組合は、クーリング期間を挟み、繰り返し大分大学で雇用されている非常勤職員に対しては、無期雇用にすることや、特例非常勤職員制度をもっと広げていくなど、待遇改善につながるような制度を至急設計するよう強く要請しました。

法人からは、非常勤職員がそれぞれの現場で頑張っており助かっているというのはよくわかっているが、現場によって状況も違うので、総合的なキャリアパスの方策を検討していると回答しました。

## ■ その他

### ・奨学金返還支援(代理返還)制度の導入を行うこと

この制度は、日本学生支援機構(JASSO)の貸与奨学金を受けていた職員に対し、企業が返還金額の一部または全額を代理で返還する制度であり、組合は法人として教職員の福利厚生の一環として導入の検討を求めました。

法人からは、現在の財政状況から制度導入は検討できないと回答がありました。

### ・インフルエンザワクチン接種料金を無料にすること

組合は、衛生委員会資料で、金額があがっても接種希望者数は例年どおりだったと報告があったが、来年度は人数がほぼ一定なのであれば、早めにワクチン接種にかかる福利厚生費を確保し、希望者全員が無料で接種できるようにすることを求

めました。

法人からは、共済からの補助は、かかった経費の半分までとなっており、今のところ無料化することは考えていないと回答しました。

組合から、インフルエンザワクチンの接種率について質問し、法人は至急回答するとしました。

### ・部局への福利厚生費をこれまでどおり確保すること

法人より、令和5年4月まで実施していたが、現在は部局への配分は行っておらず、今年度はがん検診の補助に充てたと回答がありました。

組合からはせめて怪我をした時の応急セットくらいは各部局に配置すべきだと伝えました。

### ・ガソリン価格高騰への対応のため、車による通勤手当を増額すること

組合より、ガソリン価格の高騰への何らかの対応を要求しました。

法人からは、財政的状況から、今のとこと通勤手当の増額は考えていないと回答がありました。

### ・駐車料金を無料にすること

組合は、通勤手当の増額が厳しいのであれば、今年度の緊急対策として駐車料金を無料にする等の対策をとるよう求めました。

法人からは、駐車料金は予算収入に組み込まれていて、必要な駐車場整備等は別途予算立てをして実施しているため、無料にすることは考えていないと回答がありました。

## なごみカフェを開催しました

2月15日(木)昼休みになごみカフェを開催しました。今回は、教育学部の安道百合子先生に「『光る君へ』で楽しむ平安文学の世界」と題してお話をいただきました。紫式部が主人公ということで、源氏物語の一部を詳しく解説していただきながら、短時間ではありましたが、平安文学の世界を学ぶことができました。

